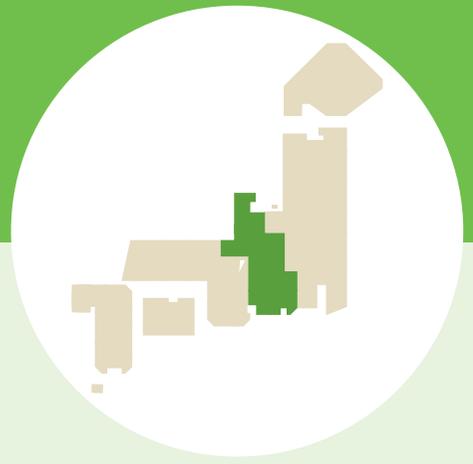


東海・北陸



p.30 岐阜県

西尾敏正さん
マラソン



p.31 静岡県

鈴木春美さん
インディアカ



p.32 愛知県

蔵藤 寛さん
サイクリング





マラソン 3km 「清流走友会」(選手)

にし お とし ま さ
西尾敏正さん 72歳
● 参加歴：1回目

古い実らす群像 高揚し凜と輝く

いくつになっても<新しい風景>に出会える——。「ねんりんピック愛顔のえひめ2023」に出た率直な感想です。男子マラソン3kmに初出場。自己記録を11秒更新し、ひよっとしたら記録を伸ばせるかも……。<新しい扉>が開きました。72歳。まだまだやれるぞ。

出場はひよんなことから。太極拳出場の妻の一言で。「マラソンもあるから挑戦してみたら!」。県選手選考会に申し込みました。でも、心配だったのが記録。県内の大会に過去2回出て10km63分。キロ6分ペースです。この層の方は多く、事務局に問い合わせました。そして承諾をいただき6月の選考会へ。3km70歳以上男子の選考会は幸い(?)出場者が私1人だけ。トラックを7周半するのは正直、きつかったのですが出場できることに。なんでもドアは叩いてみるもの……と、いい経験となりました。

ねんりんピックのマラソン会場は、山間にある人口約3600人(2023年11月現在)の松野町。宿は、隣の宇和島市のホテル。レース前夜はランニングで夜の街に出るチームや、周辺の道路で試走する選手の姿があり、「いいよだ」と気持ちが高ぶりました。わがチーム「清流走友会」で夕食を食べた後、「少し走っておかないと」と心細くなり、周辺を30分ほどジョギングし、よく眠りました。

清流走友会は男女6人で、種目は3km、5km、10km。

町での開始式を終え、先輩選手に声援を送るうち、アツという間にスタート時間に。上り下りがありました。息があがることなく完走できました。初の全国大会で自分のペースがつかめず、前の走者を抜けそうなのに抜けないという不思議な感覚でした。16位という結果には満足しています。

無事に走り終えた後は経験したことのない充実感に満たされました。初参加の`ど素人、の私には一つひとつが初めての経験でとても新鮮。着替え時に見た、各選手の`鋼、のような足の筋肉、開始式を惜しんでストレッチする姿。ホテルの朝食は、私はいつも通りパン、サラダ、ヨーグルトなど軽めでしたが、周りにご飯山盛りに肉類。「スタミナ切れしないぞ」という選手の姿勢に、「うわー、やる気満々」と圧倒されました。

大会前夜やレース後の打ち上げなどで、先輩方のラン歴や走りの工夫を直に聞け、たくさん助言をいただきました。大きな刺激を受け、今後の指針となりました。会場では名前も知らぬ各県の選手と、ランナー同士ということで親しく会話でき、楽しかったです。ここでも<新しい世界>をかい間見た心境です。

参加者は皆、快活でとても元気。現地の方や関係者の方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。またお会いしましょう。



元気にスタート。(手前右端)



岐阜県勢でガッツポーズ。(左端)



インディアカ 「ベルジュ」(監督兼選手)

すずき はるみ
鈴木春美さん 62歳
● 参加歴：1回目

優勝し、心からの笑顔に！

私たちは、ねんりんピックに参加することをとても楽しみにしていました。やっとこの日を迎えることができ、心地良い感覚を覚えました。

愛媛に向かう当日は天候にも恵まれ、美味しい駅弁をいただきながら、岡山を經由し、大会会場の伊予市に到着しました。そこでは、開始式が行われ、全国から集まったチームの紹介や市長より元気で温かなお迎えのお言葉をいただきました。ねんりんピックが始まったと実感した瞬間でした。

1日目の朝、しずおか健康長寿財団の理事長をはじめ県職員の方々からチーム名の入った横断幕と激励の言葉に勇気をいただき、予選が始まりました。試合は12チームが3ブロックに分かれ、愛媛県、広島市、長崎県のチームと当たり、ブロック1位で翌日の決勝リーグに繋ぐことができました。

2日目は、1試合目第1ブロック1位の愛知県と当たり2-0で勝つことができました。2試合目は、第2位ブロック1位の愛媛県と当たり3セット目まで勝敗が持ち込みにな

りました。最初先攻されてしまいましたが、負けたくない気持ちを全員で共有でき、チーム一丸となって勝ち取ることができました。なんと、全勝優勝ができました。思わずチーム全員で肩を抱き合い喜びました。

また、愛媛では、ボランティアの方々の心温まるおもてなしと大学生とのふれあいに心癒されました。チームのお世話をしてくださったボランティアの方とは、今でも交流が続いています。とても素敵な出会いに感動しています。

インディアカチームの最高齢の方は80歳台で、とてもパワフルな動きにまだまだ頑張れるパワーをもらいました。これからも、最高の仲間と週2回の練習と試合を楽しく元気に、大人の部活を続けて行こうと思います。

最後に、今回ねんりんピックえひめ大会をサポートしていただいた県やしずおか健康長寿財団の方々、いつも練習をしてくれる地元のチームの方々、家族、携わってくれた方々に感謝申し上げます。



チームワークを発揮し、全勝優勝の快進撃。(背番号9番)



表彰式後、優勝メダルを手にとびきりの笑顔で記念撮影。(右から2番目)



サイクリング 「愛知県」(選手代表)

くらふじ ひろし
蔵藤 寛さん 64歳
● 参加歴：1 回目

地元の方々の応援に支えられて、全員笑顔で完走！

2008年のかごしま大会以来15年ぶりにサイクリング競技が復活しました。これを受けて、愛知県および名古屋市の選手団事務局から要請があり、愛知県サイクリング協会にて選手を選出することになりました。愛知県サイクリング協会には約200名の会員がいますが、その中から60歳以上で、100km越えの走行ができる人を募集した上で選考しました。その結果、愛知県選手として、Kさん、Sさんと私の3人、名古屋市はTさんとMさんの2人、合計5人が決定しました。

大会当日の10月29日は快晴で、絶好のサイクリング日和となりました。毎年開催されている大会「サイクリング佐田岬」との合同開催方式で、豊後水道に突き出た細長い佐田岬半島を往復する約100kmを、若い人たちと一緒に、我々ねりんピック選手約60人も走るようになりました。「まだまだ若いモンには負けんぞ〜！」(←爺々の気焰)

スタート会場の八幡浜の道の駅では、思いが

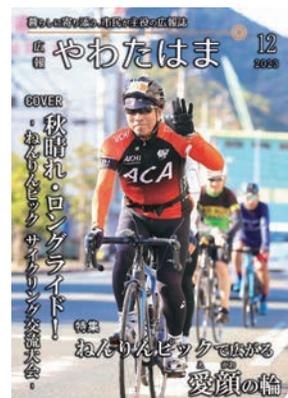
けず愛知県選手団事務局の方が旗を持って応援に来てくれていました。たくさん競技の中から、サイクリングを選んで来ていただき感激しました。全員で記念撮影の後、いよいよスタート。

スタート直後は5人一緒に走っていましたが、次第にバラバラになり、途中のエイドステーションで順次落ち合いながら各自の脚力に応じて無理をせず走るようになりました。愛媛特産のみかん畑の激坂道を、登っては下りを何度も繰り返すハードなコースでしたが、きれいな海を見ながら気持ちよく走ることができました。各エイドステーションでは地元の食材などの提供もあり、体力気力を回復することができました。また沿道では地元の方々が拍手をして応援してくださり、大変嬉しかったです。そのおかげで、5人全員無事に笑顔でゴールすることができました。

なお、余談ですが、八幡浜市の広報誌12月号の表紙に、光栄にも我々のメンバーのSさんの写真が採用され、よい記念になりました。



応援に駆けつけた愛知県選手団事務局と選手で記念撮影。



八幡浜市広報誌の表紙を飾ったチームメンバーのSさん。